

PFAS その後も続く攻防戦

大野博美

会報40号では下総基地に立入りしたことをお伝えしたが、その後、目まぐるしく事態が動いている。

1. 自衛隊下総基地 ショー(衝?笑?)撃の防衛省交渉

3月31日の立入りのあと、福島瑞穂さんの仲介で、4月21日、初めて防衛省交渉を行った。

基地内で高濃度のPFASが計測された排水口を実際に見て、基地周辺の水路や、民家の井戸の汚染の原因になっていることを確信したが、防衛省は、「基地の中と外の因果関係は不明」と繰り返すばかり。しかし、千葉県も「水路のPFAS汚染の要因は、基地からの排水と考えられる」とホームページに明記しているではないか。

さらに、私たちの「これ以上外に漏れないような対策はしているのか」という質問に対し、「排水口に土嚢と板で蓋をした」と答えるので、「それはいつからか?」と聞くと、なんと立入りの3日前。「今も蓋をしているのか?」と聞くと、なんと「1週間ではずしました」。正直なことは認めるが、福島瑞穂さん対策としか思えない。

防衛省交渉は第2ラウンドへ



6月30日、2回目の交渉を実施。今回の「はて?」は、防衛省が「自衛隊活動とPFASとの関係性」と、耳慣れない表現を使いだしたのだ。前回は「消火訓練」などと具体的な表現だったのに、「自衛隊活動」という国家レベルの表現にすり替え、国防なんだからと責任逃れに走ったとしか思えない。案の定、因果関係は絶対に認めようとせず、私たちが強く求めている土壌調査にも「NO!」。

編集後記 水道料金また値上げ!

佐倉市の水道料金は3年前に値上げされましたが、来年4月からまた値上げされます。口径20mm、1カ月20㎡使用した場合、1カ月550円値上げされ、4320円になります。八潮市の陥没事故が記憶に新しいところですが、上下水道の耐震化・老朽化に多額の費用がかかるので、値上げも致し方ないという論点にすり替わっています。市民

ただ、一つ成果だったのは、「PFAS流出防止対策」を専門業者と協議しているとのこと。その後、排水口3か所に「PFAS除去装置」が設置され、9月22日から稼働開始。現在、PFAS濃度がどれくらい軽減できたのか、データ公開を求めている。

2. 産廃処分場のPFAS汚染

君津市の御腹川の源流に立地する巨大産廃最終処分場は、13年前に汚染水が漏洩し、周辺の飲用水への汚染が懸念されている。今年3月、現地の住民の方々と御腹川を遡り、処分場との境界線でPFASを測定。結果はPFOAが437.8ng/L(暫定目標値の8倍超)。PFHxAが、なんと12250.51ng/L(暫定目標値の2450倍)。御腹川は小櫃川に合流し、君津市民の飲用水となっている。住民団体は何度も千葉県に対処を求めているが、県は「処分場との因果関係は不明」と涼しい顔だ。

3. 千葉市若葉区の下志津駐屯地

4年前、下志津駐屯地の泡消火剤専用の水槽から、38万ng/Lという超高濃度のPFASが検出された。周辺への漏出が心配だが、県は「基地は千葉市にあるので、県は手が出せない」の一点張り。そこで、県議の政務活動費を使って、基地近くの3軒のお宅の井戸水を測定した。結果は、最高値が41.7ng/L。暫定目標値50ng/Lよりも低かったが、アメリカの基準の4倍というグレーゾーン。基地の排水がどうなっているか、心配だ。

国も県も、PFASを巡る動きは相変わらず鈍いが、それでも下総基地が全国でも初めてPFAS除去に動き出したことは、私たちの運動の成果だと思う。今後も、粘り強くしたたかに取り組んでいきます!!!



に負担を強いる前にやることは、不要な霞ヶ浦導水事業からの撤退です。千葉市は撤退したので、自治体の判断で撤退すべきと議会で何度も訴えています…。

少子高齢化でますます財政が厳しくなる中、国の言うままに多額の事業費を支払っている場合ではありません。(松島こずえ)

WATER & THE YANBA

vol.41

CONTENTS

- PFAS! 規制と検査は進むか? 武笠紀子
 - 今年のハッ場ダム ~少雨と熊騒動 渡辺洋子
 - 石木ダム訪問記 松本美智恵さんを偲ぶ 猪俣悦子
 - PFAS その後も続く攻防戦 大野博美
 - 編集後記 松島こずえ
- 編集: 猪俣悦子

水問題とハッ場ダムを考える千葉の会

代表: 武笠紀子・大野博美
住所: 〒270-0007 松戸市中金杉4-71-2
TEL: 090-9365-9608 (武笠)
WEB: 「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」
で検索してください。

2025年12月15日発行

PFAS! 規制と検査は進むか?

当会では、早くから水のPFAS(有機フッ素化合物)汚染問題に取り組んできました。2023年の環境省の河川・地下水調査では2078地点のうち242地点で暫定指針値<50ng/L>を上回っていました。また、1745の水道事業では指針値を超えなかったものの、332事業の水道水からはPFASが検出されています。

2024年、アメリカはPFAS(毒性の強いPFOSとPFOA)の規制値を<8ng/L>と決めました。日本の指針値は<50ng/L>ですので、アメリカの規制値ならば不合格となる水道水も出ています。

PFAS除去の方法は、粒状活性炭方式・イオン交換方式・逆浸透膜方式、他にも研究が進んでいますが、どのくらいの数値以下なら健康に影響がないのかが明らかではないので、まだ安心できません。

暫定指針値がこれまでは努力目標でしたが、来年4月より『水道水質基準』に変わり、定期的な水質検査が義務となりますので対策は進むと思います。

4700種以上もあるPFASのうち毒性の強いPFOSとPFOAは、すでに製造も輸入も禁止されていますが、他のPFASも厳しく規制し、水の規制値もアメリカと同程度に厳しくするように働きかけていきましょう。

なお、PFAS汚染についての最新の情報は「東京の水連絡会」のホームページに載っていますのでご参考に。

<http://tokyo924mizu.blog.fc2.com>

(共同代表 武笠紀子)

●会費納入のお願い

*会計年度は1月から12月末まで
(一口1000円/年)
会費振込先: 00120-5-426489

今年のハッ場ダム ～少雨と熊騒動



渡辺洋子（ハッ場あしたの会）

炎暑の上、雨が少なかった今年の夏は、ハッ場ダムの貯水池にも異変をもたらしました。2020年のダム完成後、これほど水位が下がったことはありません。

洪水調節（治水）を目的とするダムは、夏場は大雨に備えて治水容量を空にして洪水に備えます。治水と利水を目的とするハッ場ダムは、有効貯水容量9000万m³のうち治水容量が6500万m³、利水容量が2500万m³と、治水容量の割合が大きなダムです。このため洪水期（7月1日～10月5日）には例年、ダム湖の水位が他の季節の満水位より最低でも28メートル下がります。



ダム湖の中でも上流側の丸岩大橋付近は堆砂が進んでいる。

NHKが今夏、ハッ場ダムの貯水率が50%（1025万m³）以下になったと報じたのは、8月19日のことでした。この時点ですでにカヌーができなくなるなど、観光への影響が出はじめていたのですが、その後も水位は下がる一方でした。翌20日には貯水率40%、26日には30%を切りました。この間、上信県境では時おりタ立がありましたが、9月に入ると貯水率は15%にまで低下。こうなると水が少なすぎて水陸両用バスも運航できません。ダム湖観光の目玉は9月1～8日のあいだ休止を余儀なくされました。



かつては田んぼが広がっていた久森沢周辺。ダム湖に沈められた吾妻線の線路が姿を見せた。

この時期、ダム湖に沈められた道路や鉄道、橋などが湖面から姿を現しました。川原湯温泉街が沈んだところでは、旅館の建物跡や立ち枯れた木々、対岸の川原畑地区の水没地では巨岩の三ツ堂石仏群跡も姿を見せました。



川原湯温泉街の跡。旅館の礎石と立ち枯れた木々。

ハッ場ダムは運用開始から5年しか経過していませんが、ダム湖にはすでに大量の土砂が堆積しています。土砂は上流から流入するだけでなく、崩れた湖岸からも貯水池に流れ込みます。

9月後半からの秋雨で水位は徐々に回復していましたが、紅葉シーズンに入ると今度はクマ騒動が勃発。吾妻渓谷では10月18日にクマ2頭が目撃され、翌19日から31日までアガッタン（廃線となった渓谷内の線路を利用して東吾妻町が運営する自転車型トロッコ）が休止されました。さらに11月1日には川原湯温泉の代替地にある郵便局付近の道路法面上部でクマ目撃情報が。地元の実行委員会が11月9日に企画したイベント「やんばでウォーキング」（募集人数100人、参加申込み約200人）も中止となりました。

かつて紅葉シーズンの今頃は、水没地にあった川原湯温泉駅から吾妻渓谷へ、観光客の列が途切れることなく続いたものです。渓谷内の長野原町と東吾妻町の町境には「熊の茶屋」があり、カーブのきつい国道の山ぎわにクマの檻が並んでいたことを覚えている方もおられるのではないのでしょうか。

★新刊のお知らせ★

千葉県在住、ハッ場あしたの会アドバイザーの梶原健嗣氏著
岩波ブックレット「大洪水時代の防災
命を守る「治水」へ」



石木ダム訪問記 5/7～9 松本美智恵さんを偲ぶ

猪俣悦子

なぜ造る 意味のないダム ムダなダム

50年前に計画された長崎県の石木ダム建設事業。人口も水需要も減少している中、住民の反対をよそに、強硬に工事が進められている。その建設予定地「川原（こうばる）」を5月7～9日、「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」で活動するさくらネットの県議・市議他6人で訪れた。

「石木川まもり隊」代表の松本美智恵さんの案内で、1日目は現地見学。こんな小さな支流にダムを造るのかと呆れた。



午後は公民館で長崎県議や近隣の市議11人から、石木ダム建設の経緯と問題点をお聞きした。「結局、行政は渇水対策や治水のためではなく、ただ公共事業がしたいだけなんです。造ると決めたら何が何でも造るんだという姿勢で、見直す気がない」。実際、元国交省職員の宮本博司さんは、様々なデータを基に、石木川にダムができると逆に洪水の危険性が増すと指摘している。地盤にも問題があり、事業費は膨らむばかり。自分たちの税金や水道料金がどんどん投入されることを知らない市民も多いという。

2日目は2カ所の団結小屋を訪れ、地元住民たちと交流した。川原地区に残った13世帯が、15年に渡って8時から16時まで、2交代で座



団結小屋で毎日、交代で監視と反対運動を続ける現地の方々と（右端が松本さん）



↑緑豊かな山の斜面が削られ、地肌がむき出しに
→ショベルカーなどがうなりをあげる工事現場



り込みを続けている。この座り込みは、県知事や川棚町長が住民の同意を尊重するという覚書を無視し、強制執行したことから始まったそうだ。

ゲンジボタルが乱舞し、子どもたちが川遊びを楽しみ、棚田百選にも選ばれた自然豊かな川原。「ここはとても住みやすいところ。私たちも子どもたちも、美しいふるさとに住み続けたいだけなんです」現地の住民が、切々と訴える。

遠く佐倉から応援に来たことで、長崎の議連が動き始めた。ダム見直しに向けた世論の高まりにつながってほしい。

松本美智恵さんを悼む

石木川まもり隊代表で、私たちの訪問時、ずっと案内をしてくださった松本美智恵さんが8月11日、脳出血で急逝されたことと連絡が入りました。

長年にわたり、石木ダム建設反対運動に精力的に取り組んでこられた大きな存在だっただけに、本当に残念です。ご冥福をお祈りするとともに、松本さんの思いと活動が引き継がれ、実現することを願うばかりです。